



学校だより



令和7年4月30日
江戸川区立新田小学校
第2号

育てよう人権の花

校長 鈴木 剛司

今年度新田小学校では、東京都人権擁護委員協議会が行っている「人権の花」運動に参加します。「人権の花」運動は、花の種などを児童が協力し合って育てることを通じて、協力・感謝することの大切さを生きた教育として学び、生命の尊さを実感する中で人権思想を育み、情緒をより豊かなものとする 것을 目的としています。今年は環境委員会が中心となって、花を育てていきます。全校朝会では、代表となった児童が、「花も人と一緒に命があります。その命を大切に育てていきます。」と全校児童に伝えてくれました。



校庭の池では昨年度末からメダカの飼育も始めました。休み時間には、たくさんの子供たちが代わる代わる職員室に「えさをあげたいです」と来て、メダカや金魚にえさをあげています。プールではヤゴトープを作り、今後ヤゴの救出を行う予定です。飼育小屋ではすくすくと連携してカブトムシの幼虫も育てています。

こうした活動をつなげていくことで、やさしい心や「いのち」を大切にすることを育んでいきたいと考えています。人権には様々な課題（「女性」「子供」「高齢者」「障害のある人」「同和問題」「外国人」「性的指向」等）がありますが、命を大切にすることや人と仲良くすることなど、一つ一つのことが人権を守ることに繋がっていることをしっかりと伝えていきたいです。

肯定的な視点を大切に

ある新聞記事からの抜粋です。

靴会社の2人の営業担当が、ある同じ国へ営業に行ったときに、1人は「この国では、誰も靴を履いていません。靴は全く売れる見込みはありません。」と会社に報告をした。もう1人は「この国では、誰も靴を履いていません。靴を履く習慣を付ければ、飛ぶように靴は売れます。」と報告をした。

これは解釈というものを考える上で、示唆に富んだエピソードだと思う。同じ出来事でも、真逆の認識となることもあるが、この違いはどこから来るのであろうか。それは、できないという否定的視点で見るか、できるという肯定的視点で見るかの差ではないか。

前兵庫県市立高等学校長会会長 山根 修さんの記事から一部抜粋

私は日頃から、2つの視点で物事を見ることを意識していたので、この記事が心に残りました。どちらが正しいといったことではなく、反対から見たらどのような視点になるかということを考えるようにしたいと思っていました。「もう、これしかない。」⇔「まだ、これだけある。」「これしかできない。」⇔「ここまではできる。」などなど

日々の生活の中では、全てのことが当てはまるわけではないですが、考え方によっては、そこで思考が終わってしまったり、諦めにつながってしまったりすることがあります。学校でも様々な懸案事項が出てきますが、できるだけ上の記事にあるように、肯定的な視点をもつことで、子どもたち、保護者の方、地域の方、教職員にとって少しでもプラスになるよう、前向きに取り組んでいきたいと考えています。

江戸川区立新田小学校 HP: <http://edogawa.schoolweb.ne.jp/1310034>